



# ARIMASS Letter

[Association for Risk Management System Studies]

危機管理システム研究学会 2005年3月  
第20号

## 危機管理システム研究学会第5回年次大会開催にあたって

危機管理システム研究学会理事  
寺本 研一 (東京医科歯科大学)

第5回総会は、「変化激しい時代のリスクマネジメント」と言うスローガンでお茶の水の東京医科歯科大学で開催いたします。この一年で日本社会でもさまざまな危機管理、安全管理に関する事象が起きました。コクド、西武鉄道の堤体制の崩壊は独裁的体制におけるコンプライアンスの問題と危機管理のゆがみとも考えられます。学校を襲う暴漢に対する危機管理も難しいものがあります。今回の総会は、東京医科歯科大学が担当させていただきます。医歯系の大学ということで午後のパネルディスカッションは医療の安全管理、危機管理がテーマです。医療に関する諸問題は現代社会の大きな課題のひとつです。死は人の避けられない現実であり、一度も病院にかかったことなく一生を終えるのは不可能ではありませんが、実際は非常に困難でしょう。一方病院というところは、危険に満ちています。病気に対する治療とは、毒物を注射したり、ナイフで腹や頭を切ることです。病院ほど危険に満ちている場所はありません。すべての人は病んだとき十分な手当と、納得のいく治療を受ける権利があります。現代の医療はその根本的要求を満たしているのでしょうか？ また、専門家集団である医療人は社会に対して先駆的な提言をなし得ているのでしょうか？ マスコミの過剰な報道は本当の医療の改善に貢献しているのでしょうか？ 今回のパネルディスカッションは患者側から、医療側から、法律行政から、さまざまな見方で医療の危機管理や医療の安全性を追求する討論を予定しています。例年通り懇親会もあります。懇親会はより重要な意見交換の場でもあります。一日の長い勉強の後はアルコールで喉を潤おすのもいいと思います。皆様の参加を是非お待ちしております。

目	次
危機管理システム研究学会第5回年次大会開催にあたって .....1	分科会報告 ..... 3
危機管理システム研究学会第5回年次大会プログラム .....2	事務局からのお知らせ ..... 6

## 危機管理システム研究会第5回年次大会プログラム

開催場所 : 東京医科歯科大学 歯学部 特別講堂  
期 日 : 2005年5月28日(土) 受付開始 9:30

統一テーマ : 「変化激しい時代のリスクマネジメント」

◆ 10:00~10:30 会員総会 ◆ 全体進行司会:長濱 昭夫(桜美林大学)

---

### 【10:35~17:10 研究発表報告・パネルディスカッション】

---

【10:35~11:50 研究発表・報告(セッション1)】座長:指田 朝久

(東京海上日動リスクコンサルティング)

第1報告 10:35~11:00(報告15分、質疑応答10分)

テーマ:リスクの概念・分類の見直しと「リスクの価値」の概念

副題—リスクの定量化に合わせた新しい概念の推奨—

報告者:後藤 和廣(MSK基礎研究所、早稲田大学客員教授)

第2報告 11:00~11:25(報告15分、質疑応答10分)

テーマ:内部統制とリスクマネジメント

報告者:宮崎 昌和(株プロティビティ ジャパン 公認内部監査人、

内部統制評価指導士)

第3報告 11:25~11:50(報告15分、質疑応答10分)

テーマ:キャッシュフローの視点から見た事業継続の問題点・・・

事故・自然災害から学ぶ

報告者:眞崎 達二郎(シュプリンガー・フェアラー東京(株) 編集顧問)

---

### 11:50~12:50 休憩・昼食

ポスターセッション報告1: 於:ポスターセッション会場

テーマ:CAPPSⅡがもたらすリスクトレードオフとバルネラビリティマネジメントの役割

報告者:神田 隆之(早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程)

ポスターセッション報告2: 於:ポスターセッション会場

テーマ:Information Warfareに係る日本政府の対応に関する考察

報告者:正岡 和貴、渡辺 研司(長岡技術科学大学)

---

【12:50~14:30 研究発表・報告(セッション2)】

座長:鈴木 敏正(日本総合研究所)

第4報告 12:50~13:15(報告15分、質疑応答10分)

テーマ:大規模災害時における民間組織の初動対応に関する研究

報告者:仲間 妙子(千葉商科大学大学院博士後期課程)

第5報告 13:15~13:40(報告15分、質疑応答10分)

テーマ:三菱重工客船火災事故の行動科学分析

報告者:樋口 晴彦(警察大学校警察政策研究センター教授)

第6報告 13:40～14:05 (報告15分、質疑応答10分)

テーマ：非線形的特性に基づく危険の再認識—リスクチェーン—

報告者：加藤 直樹 (防衛庁 航空自衛隊幹部学校戦略教官)

第7報告 14:05～14:30 (報告15分、質疑応答10分)

テーマ：大規模災害時の企業の役割

報告者：坂本 仁一 (社団法人 日本損害保険協会)

14:30～15:00 分科会報告

リスクマネジメントシステム研究分科会：指田 朝久 (同分科会主査)

リスク事例サロン分科会：島田 公一 (同分科会主査)

国際交流分科会：荒木 秀夫 (同分科会主査)

メディカルリスクマネジメント分科会：寺本 研一 (同分科会主査)

---

15:00～15:10 休憩

---

【15:10～17:10 パネルディスカッション】

『医療事故—リスクマネジメントの見地から—』

コーディネーター：寺本 研一 (東京医科歯科大学)

パネリスト：大川 淳 (東京医科歯科大学)

中村 陽子 ((財)日本医薬情報センター)

内田 英二 (昭和大学)

秋山 昌範 (国立国際医療センター)

松村 卓治 (新東京法律事務所)

野村 徹 (株マーシュブローカー・ジャパン)

---

17:20～19:00 懇親会 あるめいだ 司会：島田 公一 (あいおい損害保険)

---

【参加要領】

※申し込み方法：送付済みの大会開催案内状に同封の返信用葉書に該当事項をご記入の上、4月25日までにご送付ください。

※参加費：4,000円 (当日受付にてお支払ください)

※開催会場：東京医科歯科大学 歯学部 特別講堂

東京都文京区湯島1丁目5-45

JR御茶ノ水駅下車 徒歩3分、地下鉄丸の内線 御茶ノ水駅下車 徒歩1分、

地下鉄千代田線 新御茶ノ水駅下車 徒歩5分

## 分 科 会 報 告

【RMS (リスクマネジメントシステム) 研究分科会】

主査：常任理事 指田 朝久 (東京海上日動リスクコンサルティング)

今年度リスクマネジメントシステム研究分科会では用語WG、規格の国際比較WG、内部統制とリスクマネジメントWGの3つのワーキンググループを設置し研究をすすめることとしました。以下各WGの活動報告

を紹介します。

### (内部統制とリスクマネジメント WG 報告)

日 時：2004年11月25日(木) 18:30~20:00

会 場：新東京法律事務所

参加者：北沢、上野、長尾、吉川、北澤、真崎、藪、宮崎、山崎、綾部、内田、鹿野、樋口、三宅、小島、  
(敬称略・順不同)

報告者：小島直樹氏

テーマ：(内部統制の歴史的展開のレビュー)

配布資料：・「内部統制の歴史的展開レビュー」(小島直樹)  
・株式会社のしくみと変遷(北沢義博)

議論のポイント：今回は、「内部統制の歴史的展開のレビュー」に関わる内容として、「内部統制、監査、コーポレート・ガバナンスといった、お互い似通った概念及び関連する各種の文書・報告の相互の関連について」調査・解説を小島直樹氏(グループリーダー)より報告をいただいた。その後の議論では、監査役のしくみの変遷、内部統制におけるリスクの評価について「程度(損失の規模)」と「可能性(損失の発生頻度)」の関連について議論を行った。また、内部統制における監査制度や監査人等についての知識の共有も行われた。こうした議論を踏まえ、監査役の意義を整理し、当WGとしての検討課題を抽出し絞り込んでいきたい。

### (用語 WG 報告)

1. 日時 2004年12月15日 18:30~20:30

2. 場所 日新火災海上保険株式会社 会議室

3. 出席者 後藤リーダー、指田、土屋、長尾、横井(文責)

4. 議事

前回に引き続き、R I S Kの解釈において、プラス・マイナスの概念が、国・業種などにより異なることが意見として出された。日本においては、損保はプラス・マイナス両方をリスクと考えながらもマイナスの純粋リスクを重視している。また、銀行では主に株価変動などではプラス・マイナス両方をRMとして扱う。さらに、ISO/IEC GUIDE 5 1での安全の概念では、マイナスのみを扱うとされている。例えば、飛行機・医療においてはリスクはマイナスからゼロに限りなく近づけるべきであり、絶対安全はあると思われる場合がある。リスクの計量化についても意見が交わされ、計量化の可否や、計量化の結果とキャッシュフローの関係を議論した。これらの様々な意見からは、リスクの定義を広義に考えながらも、対象を決めて定義することが、解釈の上ではわかりやすさにつながると考えられる。

### 【リスク事例サロン分科会】

主査：常任理事 島田 公一(あいおい損害保険株)

「リスク事例サロン分科会」はマスコミ等で取り上げられた事件や危機事例を題材に、会員間で自由に危機管理・リスクマネジメントの観点から情報交換や意見交流を行うことを目的としています。

本分科会は開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。今回は、第16回分科会の報告をいたします。

1. 開催日時：2005年1月12日(水) 18:30~20:30

2. 開催場所：於 東洋経済新報社 9階会議室)

3. 参加者(16名)：

加藤、河東、川端、小島(修)、小島(直)、斎藤、島田、須曾、能崎、原、宮崎(貞)、宮崎(昌)、森田、山本、横井、阿部(事務局) ※50音順・敬称略

4. テーマ：「企業情報開示義務と危機管理」

5. 内容：

齋藤淳氏（齋藤淳公認会計士事務所）よりこれまでに発生した西武鉄道や日本テレビ放送網など情報開示義務違反の事例について紹介があり、報告後、飲食しながら参加者による自由発言・情報交流が行われました。参加者からの主な発言は次の通りです。

<最近の開示不祥事と監査について>

- 各事件、マスコミ報道にある企業の不正、倫理ダウンは昔からあるもので目新しいものではないし、最近増えたというものでもないのではないかと。むしろ、表に出るようになってきてのは制度改革の効果が上がっているともいえるのではないかと。名義株問題など今後も続くと思う。
- 監査のレベルに関して言えば上がっているとは云えない。実質的には下がっている。国際基準に合わせるため過去やらなかった形式的な手間を多くかけざるを得なくなっているだけだ。
- 監査役機能強化の効果は企業によって区々だ。古い感覚の人もいるし、結局教育が大事だ。良い点は監査人が喧嘩を出来るようになったことだが、逆に会社から訴えられるリスクがある。
- 現場は法律の趣旨、監査法人の指針、会社内の委員会などこの世界的に始まったばかりのものに振り回されている。監査法人が意見を強く言うようになってきた。基本的には会社が判断してゆくのが筋だが、力関係は監査法人のほうが強い。今後は会社も主張してゆくべきだ。
- 監査役は取締役を監視できるが、業務監査は無理。現場の人とは違うし、できない。商法改正で監査役機能強化は事実だが、実態は追いついていない。監査役は社長に逆らえない。
- 監査役がスタッフを持っている会社もあるが、通例はない。
- 上場企業の半分以上の会社には内部監査部門がない。

<企業の情報開示について>

- 虚偽記載とは意図的に嘘を書くことだと思うが、当事者が誤った判断をしている場合リスク情報がどこからどこまでか見えてこない。何をどのように判断するのか？三菱自動車のリコール隠しなど、虚偽記載としてどのような取り扱われるのか。白黒とは違う、中間的なものグレイのものはどうするのか。
- 不透明だ。日テレの場合も商法違反かどうか結論はでていない。改正商法では、株価がそれによって下がった場合としているが、結論としてはあり得る。
- その行為の金額は別として、質的・量的な区分が明瞭に答えられていない。
- 有価証券報告書に、事業リスク開示欄にコーポレートガバナンスが開示されている。これはしっかりやってこそ記載できるもの。実際はやっていないのに書くことは一番まずいのでは。開示することに重点を置きすぎ、実態に合っているか、曖昧なこともきちんと、また本当にやっているのかが重要。
- 投資家に丁寧にIR活動するなど外形的には進んだ。しかしコーポレートガバナンスに関する記載をみると書いてあることは各社殆ど同じ内容で作文に近く、実質が伴っていない。○マイナス情報はできるだけ出すようになってきたが、変な開示はマイナスのリアクションを生む。株価が下がることも。
- 企業の開示義務（法律）は2004年3月からリスク情報が加わったが、法律先行で本当に大丈夫かとの日経新聞報道もある。理想と現実の差が大きい。書いても大丈夫なことしか書けないのではないかと。
- 表に出ていることは大したことではなく、ビジネスリスクやまずいことは書けないのではないかと。
- リスク情報でも適時に開示することが肝要

**メールアドレス登録・変更通知のお願い**

本分科会の開催は開催の都度学会のホームページおよび電子メールでご案内しますので、メールアドレス未登録の方または登録済メールアドレスに変更がある方は学会事務局までご連絡ください。

## 【MRM 分科会】

主査：理事 寺本 研一（東京医科歯科大学）

日時：2月10日木曜日、18：30～20：30、その後懇親会

場所：（財）日本医薬品情報センター

招待スピーカー：虎ノ門病院泌尿器科部長 小松秀樹先生

出席者：寺本、大川、中村（陽）、野村、長井、能崎、北澤、土屋、内田、宮崎、板倉

MRM 分科会では5月の総会に向けて準備を進めています。2月の分科会では慈恵医大青戸病院事件（前立腺摘出術を腹腔鏡で行い出血多量のため患者が死亡した事件）に関する著作がある虎ノ門病院の小松秀樹先生に参加願って、青戸病院のケースを中心に討論を行いました。青戸病院のケースは医療の安全性にかかわる諸問題を内包しており、本ケースを原点に医療の安全性にかかわる諸問題を総会のパネルディスカッションで行いたいと思います。

### <事務局からのお知らせ>

#### 1.分科会連絡先

教育実践分科会：主査：後藤和廣、TEL. 03-3291-8921/Fax. 3291-8930 e-mail:gotokaz@aol.com

RMS 分科会：主査：指田朝久、TEL. 03-5288-6584(直)/Fax. 03-5288-6590

e-mail:t.sashida@tokiorisk.co.jp

リスク事例サロン分科会：主査：島田公一、TEL. 03-5789-7224/Fax. 03-5789-6680

e-mail:ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp

国際交流分科会：主査：荒木秀夫、TEL. 045-540-5080/Fax. 045-540-5090

e-mail:araki.hideo@jp.panasonic.com

メディカルリスクマネジメント分科会：主査：寺本 研一、TEL/FAX03-5803-5929

e-mail:teraken.srg1@med.tmd.ac.jp

#### 2. 新入会員紹介

氏 名	所 属 機 関
秋山 昌範	国立国際医療センター
藤谷 克己	東京医科歯科大学大学院生

#### 3. 住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には変更前と変更後を並記のうえ必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7

アパネット南大井ビル (株)リムライン内

TEL. 03-5753-0080 FAX. 03-5753-0086

e-mail : [arimass@muh.biglobe.ne.jp](mailto:arimass@muh.biglobe.ne.jp)

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

2005年3月20日発行

印刷 株式会社 文典堂 03-3762-0721